

① 古代の学習でのワンポイント活用例 ～拡大表示とマスク機能で資料の読み解きクイズ～

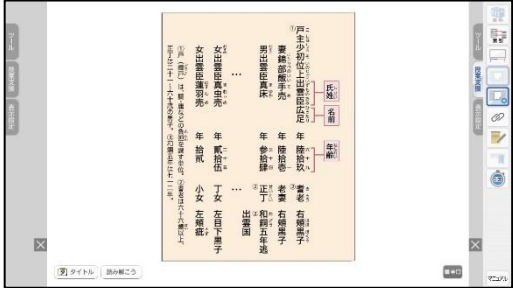
東京都立府中東高等学校教諭 吉田 英文(よしだ ひでふみ)

◆**単元名**：第2章 原始・古代の日本と世界 「⑫木簡と計帳は語る」(教科書 pp.40-41)

◆**本時の目標**：

「誰が税を負担するのか」という視点で、古代の土地制度や税制を理解する。その際、公地公民制といわれる国家による個別人身把握を、「計帳」という具体的な資料から読み解く。内容の理解とともに資料読解の力も身につけさせたい。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校算数で習う「九九」はいつ(何時代)からあるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 九九の計算が班田収授に基づく条里制や税徴収に活用されたという説を紹介する。 [横山和輝『マーケット進化論』日本評論社、2016] 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクタで条里制の画像を表示。 ・ 自作プリント『万葉集』巻11, 2542の歌から九九の使用が読み取れる。 「若草乃 新手枕乎 巻始而 わかくさの にひたまくらを まきそめて 夜哉将問 二八十一不在國 よをやへだてむ にくくあらなくに
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 班田収授を行うための個別人身把握の具体例として計帳を読み取る。 【問】どのように一人ひとり把握していたのだろう。 【問】年齢と書かれているが、「陸拾玖」や「参拾肆」は何歳だろう。など ● 税を集める方法だけでなく、租・調・庸の内容や貴族の暮らしについて教科書の資料をもとに確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「陸拾玖」や「黒子」の横にある「六十九」や「ほくら」などのルビを、デジタル教科書のマスク機能(スタンプ機能でも可能)を使って隠しておく。漢字の意味を個人、そしてグループで予想し、発表させる。その際、教科書には答えが載っているので見ないように指示する。 ・ 教科書に記載されていない他の漢数字を板書し、なぜ難解な漢数字を用いたのか予想させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル教科書(p.41・5) (プロジェクタでスクリーンに映す。)  <ul style="list-style-type: none"> ・ 自作プリント 計帳の詳細や墾田永年私財法の補足資料。 [「神亀三年山背国愛宕郡出雲郷雲下里計帳(正倉院文書)」東京大学史料編纂所のホームページ内「奈良時代古文書フルテキストデータベース」から入手できる。]
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 偽籍などにより個別人身把握は次第に困難になっていくことを次回の展望として示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふりかえりシート」に授業の感想、偽籍の読み取りや次回の予想を記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 偽籍の具体例 [「阿波国板野郡田上郷延喜二年戸籍』『平安遺文』188]

◆指導にあたって：

- 本時は、生徒が苦手とする土地制度史を扱う。公地公民制や個人身把握という用語を、抽象的なものとしてではなく、事例や資料(史料)の読み取りを通して具体的に理解できるように工夫をした。漢数字の読み取りを行う際には、教科書だとルビがふられているため、答えがわかってしまう。そこでデジタル教科書のマスク機能が役に立つ。
- 「壹」「貳」「参」「肆」「伍」「陸」「漆」「捌」「玖」「拾」「佰」「阡」といった漢数字は、普段あまり見る機会のない生徒の興味を喚起するようで、好評である。現在も領収書などに使われる例から、偽造防止という視点に気づかせたい。また、これらの学習は明治時代の地券の読み取りでも活用でき、役立てることができる。

◆デジタル教科書活用のねらい：

個人身把握の具体的な資料である計帳の読み取り場面で活用する。前述のように、教科書には答えが書いてあるため、マスク機能で隠すことでクイズのようにすることができる。



▲ デジタル教科書を使用して説明する様子



資料提示：資料をクリックして拡大

- ・ ツールタブ → 範囲拡大表示
- ・ 授業支援タブ → マスク機能(事前)

◆生徒の反応：

- 印刷物の資料だと、全員の生徒が学習に取り組んでいるか、学習課題を共有しているか、把握しにくいところがある。しかし、デジタル教科書の場合、一つの大画面に映すため、すべての生徒が学習課題を共有し(もしくは生徒が共有できているか教師が確認し)、授業を進めることができる利点があると感じられた。

生徒の声

- ・ 1000 年以上前の古代に、頼の黒子(ほくろ)や傷などを記載して一人ひとりを管理していたことに驚いた。現在のマイナンバー制度に近い制度がこの時代にあったなんて。
- ・ 難しい漢字で数字を表記していたのが、偽造防止のためということに納得した。
- ・ 計帳に「逃」の文字があり、古代に一人ひとりを管理する制度はうまくいかないと思った。

◆授業を終えての感想・今後の課題：

- デジタル教科書を事前に用意しておくことで、普段よりも教壇(前)から生徒たちの学習する様子を見渡せる余裕ができた。
- デジタル教科書を拡大して表示したが、後ろの席の生徒にとっては見えにくいところもあったようだ。手元にある印刷物の資料との併用を課題に感じた。